



こくろうよなご

第13号
2024年2月25日
発行責任者 倉下文明
編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

我慢・節約は限界だ！

第97回拡大地方委員会開催

去る2月10日、国労米子地方本部にて「第97回拡大地方委員会」を開催してきました。24春闘をはじめ、安全・安定輸送の確率、ローカル線維持・存続の闘い、衆議院補欠選挙の取り組み、さらには、国労の最重要課題でもある組織の強化・拡大と「国労の将来展望について」など当面する方針について、意思統一を行って来しました。



を全体の拍手にて承認して来しました。続いて、細田執行委員が「委員発言(案)」を提案、採択後、倉下委員長の「団結頑張ろう」にて委員会を終えてきました。

質疑等について

拡大地方委員会は、青柳副委員長の司会で始まり、委員会の成立を確認後、議長に米子連合分会の千葉代議員を選出、倉下委員長から挨拶(別掲)を受け、来賓の皆様から激励の挨拶を頂き、吾郷書記長より「当面する闘争方針(案)」について提案がありました。その後、質疑応答に入り、10名の構成員が発言、西日本本部・地本業務部の答弁を受け、吾郷書記長の集約(別掲)を含めての「当面する闘争方針」

○大石地方委員(浜田) 1月16日、尼崎に「福知山線事故」の研修に行った。お客様の視点を言われるが、駅

では時計を取り外したり、お客の気持ちを考えているのか疑問に感じる。鉄道電話の撤去について、使用方などについての説明もなく使いきれないのではな

○土江地方委員(米子) 米子車掌区では、ダイヤ改正で要員▲7、現在、木次鉄道部からも2名が助勤に来ていない現状が続いている。異常時など、仕事明けで乗務してくれ等、言われるのではないかと要員不足で係長が急遽乗務したりしているが、安全が確保出来るのか、駅に社員がいなくなつた分、車内発売が多くなり乗務員の負担が増えている。宍道駅の駐車場の除雪がしてなくて、苦情を言われた。要員不足で除雪が追い

地本執行委員長挨拶(要旨)

第97回拡大地方委員会の開催にあたり、一言挨拶を申し上げます。1月1日の能登半島地震でお亡くなりになつた方のご冥福をお祈りし、同時に本部の取り組む被災地への支援について最大限の協力を要請する。

福知山線事故から19年、伯備線事故から18年目となるが、関連会社も含めて重大災害や危険な事象が後を絶たない。自らの職場で安全・安心な労働環境になつているのか、安全が自己責任になつてないか、しっかりと振り返り、安全な職場づくりに奮闘して頂きたい。

24春闘では、ベア17000円・期末手当年間臨給で6ヶ月、年度末手当で20万円・その他手当関係の要求を確立し13日に会社へ申し入れる。物価高の中、我慢・節約を強いられてないか点検を。また、職場において、小さくても改善を勝ち取ろう。24春闘の前進に向け精一杯奮闘しよう。



ご来賓の皆様

立憲民主党島根県支部連合会 副代表 角 智子様
国鉄労働組合西日本本部 書記長 大北 真也様
執行委員 波見 健一様

付かず、サービス低下に繋がっている。ダイヤ改正以降、やくもが全席指定席となるが、運休・遅延時等の対応が難しいと感じている。臨時の運転適性検査に合格した社員に対する早急な対応を求める。

○藤原地方委員(出雲) 公共交通活性化再生法」が成立、ローカル線は大きな岐路に立っている。現在、各自自治体を訪問し意見交換を行っているが、公共交通の現状に危機感を持ち利用促進に取り組まれてきている。一方で、バスなどは運転手不足で廃線や減便に追い込まれている。公共交通の利用促進と併せて、交通運輸労働者の待遇改善も急務の課題だ。

(裏面に続く)

何か出来ていけば教え
てもらいたい。

○大下地方委員(出雲)

職場の環境が良くないと感じる。年休も3月に7、8日取得できないと保存休暇になる。現在、シニア社員だが、満期まで働き続けることが出来るのか不安になる。これで、グラウンドシニアなど応募しようという気になるのか。職場は楽しくないと働き続けようとはならない。

○北村地方委員(鳥取)

社会人採用者が配属されてくるが、即戦力とはなかなかいかない。教育が現場の負担にならないよう担当者の配置も必要ではないか。要員不足の一方、採用が厳しいという話が出るが、地域限定社員枠を作るなど、創意工夫をするよう会社に申し入れるのも一つの方法ではないか。施策の提案が次々と来るが、



丁寧な回答がなかったり、実施期限ありきは問題だ。毅然とした対応が必要ではないか。

○山田委員(鳥取県)

組合員も減少する中で、役員任せの組合活動になってきているのではないかと感じている。年齢的にも、家庭や地域の役目などもあり役員を続けるのも大変になってきている。この先どのように組織を運営していくのか。みんな力を合わせないと運動の継続も困難となる。

○藤江委員長(島根県)

この時期で年休27日ある。要員不足がひどすぎる。2、3年で組織がどうなるか。方向性を早めに出すことが必要ではないか。木次線でトロッコが無くなり、どう活性化を図るのか。組織の枠を超え連携することが大事でないか。第三四半期決算も黒字で通期では

上方修正、一時金など要求することも必要ではないか。

○木村交渉委員(浜田)

祈りの森の研修に行くことになったが、研修の前泊は会社が手配するが、後泊については、個人で手配をするように言われる。遠距離で研修に参加する人のことも考えた内容にしてもらいたい。現場の勉強会について、教えるほうも十分な理解もないまま行われている。教育の在り方について見直しが必要だ。

○和久理運輸職協代表

春闘の国労要求は高すぎて、雇用が守れないと言われてきたが、賃金が上がらず離職が増えているのが現状だ。しっかりと要求し、闘うことが必要だ。国の取り組んだ賃金アップメントに他労組の仲間にも協力してもらいたい。米子地本は来年から現職者がいなくなる中で、現職の他労組の仲間の声や要求を掴むことが重要であり、来年についても取り組んでいきたい。

やくも号が全席指定となれば、通勤利用の人には不便を強いることにならないか。

西日本本部答弁

臨時の運転適性検査で合格した社員の配属については、本人希望を尊重するように引き続き会社に求めていきたい。グラウンドシニア社員の採用については、職種等で選別せず、労働意欲のあるシニア社員について、希望者全員の採用を求めているところである。採用が難しく工夫が必要との意見も頂いたが、採用競争力を高めるとい意味で、「奨学金返納制度」の新設なども提案している。魅力ある会社にするため、労働組合としても様々提言していきたい。団体交渉が期限ありきという話もあったが、会社が不誠実な態度であれば、本部としてもしっかりと対応していきたい。祈りの森研修の遠距離での参加の方の問題点について、是正を求めるなど何らかの対応をしていきたいと思う。今後の国労組織のあり方について、西日本本部に要請して

書記長集約

(要旨)

10名の構成員から発言を頂いた。頂いた意見は、執行委員会でも議論していきたい。JR西日本は、インバウンド需要の増加などにより、3期連続の増収・増益となっている。一方、構造改革や仕事の効率化が進み、将来展望が持てない職場環境になっている。24春闘では、「大幅賃上げと労働条件改善」を力強く訴えていく必要がある。エリア本部の春闘交渉を押し上げるためにも、春闘討論集会・一職場一要求・現場長申し入れな

業務部長答弁

メンテックの要員問題、親会社としてしっかり関与していくよう西日本本部に要請して

な職場作りに向け奮闘していきたい。

芸備線の一部区間に

「再構築協議会」が設置されたが、三江線廃止の経過から、廃止に追い込まれることが懸念される。米子地本は、昨年より鳥取・島根両県をはじめ、沿線自治体の交通政策課と意見交換を行ってきた。木次線応援団加入の取り組みなど、出来ることを精一杯取り組み、地域と連携してローカル線の維持・存続を図る。組織拡大では、何気ない職場での会話や行動など、常日頃のコミュニケーションが大事に

